

長畝ふるさと通信

【2016年8月号】

■ 8月の風景(観測史上最も暑い夏)



観測史上最も暑い夏と言われた8月。連日30度を超える猛暑の中、畦草刈りやカメムシ防除などを行いました。カメムシ防除は毎年8月13日頃、ラジコンヘリで大半を行います。ヘリが飛ぶことのできない田んぼは下写真のように田んぼの両端をビニールホースで渡し、背中に背負った動力噴霧器で粉剤を散布します。なるべく風のない早朝に散布するのですが、全身農薬まみれ、



汗まみれ。決して良い仕事ではありません。日陰のない田んぼでの畦草刈りはそれこそ太陽との戦いです。

そんな中、気が休まるのは「お盆休み」です。帰省客で島の人口は倍増し、連日のようにどこかしこで「夏祭り」や「花火大会」が開催されています。地元住民は祭りの準備やら当日の対応や

らで大忙しとなりますが、なぜか楽しい。なつかしい顔に出会うと日頃の忙しさも忘れ、つつい飲み過ぎたりして・・・みんなが好きなニッポンの風景ですな。

右の写真はオニヤンマの交尾の様です。トンボは普段、田んぼや水辺で交尾をしますが、竹藪での交尾は初めて見ました。日陰のない田んぼや水辺を避け、涼しい竹藪の日陰での一戦。彼らの気持ちが十分にわかる夏の日でありました。



■ お米屋さんとの現地視察交流会

8月20日、取引先のお米屋さんを佐渡へ招いての現地視察交流会を行いました。今年は遥々沖縄県は那覇市からご夫婦での参加があったり、毎年このタイミングで夏休みを取って連続参加して下さる常連さんなど4組が参加してくれました。佐渡は暑いと言いながらも沖縄や関東方面に比べれば涼しい方で、朝晩の田んぼ風は気持ちがいいとか。四方を海に囲まれた島の特権です。夜は恒例の地元かあちゃんの手作り田舎料理。年々腕を上げてきて、今では料亭並み？のごちそうに仕上がりました。



翌日はお米さんのリクエストで棚田を案内しました。江戸時代、佐渡南部の港からこの山の峠を越えて北部の相川金山へ幾日もかけて歩いたのでしょう。食糧確保のためにこんな傾斜地まで開拓し田んぼを開墾したそうで、当時の苦勞を知る由もなく、素晴らしい景色を眺めながらみんなで朝食におにぎりをほおばりました。今ではこの棚田はオーナー制度で維持されており、募集と同時に売り切れるほど人気があるそうです。お米余りが深刻化し価格が下落する一方で、こうしたお米の需要もあるのです。

■ 生物多様性農業の国際会議(ICEBA・アイセバ)

8月26～28日、栃木県小山市で「第4回 生物多様性を育む農業国際会議(ICEBA)」が開催され、パネラーとして参加しました。この会議は過去3回の開催地である兵庫県豊岡市(コウノリ)、新潟県佐渡市(トキ)、宮城県大崎市(マガン)での会議の成果を引き継ぎ、ラムサール条約湿地登録から4年が経過した「渡良瀬遊水地」での小山市の取り組みを報告、全国発信することを目的に開催されました。国外からの参加国は韓国、ブータン、インド、ウガンダなどです。

幸福の国、ブータン王国からは「2020年までに国の農業を100%有機化する」という日本では考えられない国策が報告されました。有機農業を国のブランドにするという大胆かつ壮大な計画には度肝を抜かれる思いでした。大ホールで堂々と国策を報告するブータンのドルジさん。同時通訳なのでよくわかりませんが、「100%有機にするということは難しいが、遅かれ早かれ実現されるでしょう」と力強くおっしゃっていました。感動です。そう言えばボクが2012年にブータンを訪れたとき、ツアーガイドもドライバーも「ドルジ」さんでした。ブータンでは「ドルジ」という名前が大人気だそうです・・・モンゴルの元横綱「朝青龍」も確かドルジ・・・



韓国のコメ事情は日本とほぼ同じ。コメ全体の消費量が減少し、価格も下落してきている。そんな中、生協グループが有機農法を支持し、「生き物調査」を実施するグループが拡大している。今会議でも「日韓合同生き物調査」が行われ、韓国生協グループが圧倒的な存在感を見せました。雨天の中、濡れることもお構いなしの彼らは熱心に田んぼの生き物たちを調査します。捕獲した



生き物を分厚い図鑑片手に丁寧に記録していく。この手法は日本から学んだようで、今では確実に自分たちの技術として確立しています。ボクも何年か前に韓国で生き物調査に参加しましたが、その時のレベルをはるかに超えていました。消費者が生産者を支えるお手本ですね。

会議のまとめでは「生物多様性を活用した有機農業や循環型農業の普及・拡大」や「地産地消の質的転換」などが報告されました。難しいことは抜きにして、これからの農業の行く先を考える良い機会となりました。

早起きして「田んぼアート」を見てきました。見ごろは7月までとあって「鉄腕アトム」がはっきりしていませんが、展示してあったパネルにはアトムの雄姿が躍動していました。佐渡で田んぼアートが見られる日は来るのでしょうか？



■ いよいよ稲刈りシーズンです！

8月上旬の生育調査では、これまでの気温が比較的高かったせいで、草丈は指標値より10センチも長くなっていますが、茎数や葉数はほぼ指標値どおり。北海道に大変な被害をもたらした台風10号の影響もなく、登熟も順調に進んでおり、作柄は「やや良」と出ました。

田んぼも一面「黄金色」に変わり、空もすっかり秋の気配。いよいよ稲刈りシーズン突入です。

9月3日にはみんな集まって豊作祈願の飲み会、5日より稲刈りスタートの予定です。秋晴れの



空のもと、収穫の喜びをかみしめながらコンバインが躍動します。10月からお届けする「新米」にご期待ください。

おかわりは自由です